

Chairman's Page



理事長就任にあたって

永井良三

Ryozo NAGAI, MD, FJCC
Chairman, The Board of Directors,
Japanese College of Cardiology

このたび、伝統のある日本心臓病学会理事長を拝命いたしました。大変光栄なことと感じ入ると共に、責任の重さを痛感しております。全力をあげて先輩諸先生が築かれてきた本学会をさらに発展させるよう努力する所存でございます。

医学と医療を廻る状況は常に変化を続けており、学会も時代に適合したありかたを目指す必要があります。学会は従来、学術研究のための情報交換や切磋琢磨をする場であり、学会員の利益を図ることが何よりも重要でした。しかしながら、高度な医療が求められるようになり、医学知識も日進月歩を遂げる中、これを医師と研究者だけで対応することはもはや不可能といえます。真に患者にとって有益な医療と医学を発展させるためには、社会と共に歩む姿勢がなによりも必要です。問題の多い我が国の医療体制も、最終的には社会が決めるのであり、現場が望む医療体制を作るためには社会の理解が欠かせません。

社会からの信頼を得るためには、医療と医療現場における適切な実践だけでなく、自らの医療を裏付け、社会に示す臨床研究が必要となります。また、ガイドラインや医療制度を、行政だけでなく社会と共に作り上げる作業を続けなければなりません。さらにこれらを推進するために、会員に対する教育研修も重要です。これらのいずれが機能不全に陥っても、あるいは排他的独善主義に陥っても、全体のシステムは破綻しません。

21世紀に入り、医学研究のあり方も大きく変わりつつあるように思われます。その一つの例がトランスレーショナルリサーチです。これは心臓血管病のメカニズムに関する知見を、新しい診断・治療法にトランスレートする研究ということの意味をしています。循環器病学においても、これまで数多くの基礎研究がなされてきました。これを新しい診断法や治療法に展開するためには、技術開発だけでなく、倫理的な課題への対応、産業界との連携などが求められます。同時に、すでに臨床に定着した診断や治療法についても、その有効性と残された課題を常に明らかにすることも必要です。従来の循環器病学が、基礎研究、臨床研究、疫学研究の3つの柱で支えられていたのに対し、21世紀においてはトランスレーショナルリサーチやEBMの役割が非常に大きくなってきたと認識されます。とくにいずれの領域が上流ということもなく、サイクルを描きつつ、患者と社会に役立つ循環器病学の知識を構造化していかなければなりません。これはまさに医学知識を作るプロセスの革命的な変化であるということが出来ます。

このような状況の中で、日本心臓病学会の果たすべき役割は極めて広範にわたります。とくに近く予定されている学会の法人化においては、公益性が問われます。さらに医療の質や安全の確保も社会が注目している課題です。これは臨床医やコメディカルの生涯教育の問題でもあります。これらを実践したうえで心臓血

日本心臓病学会 理事長，東京大学大学院医学系研究科 循環器内科：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

Address for correspondence: NAGAI R, MD, FJCC, Department of Cardiovascular Medicine, University of Tokyo Graduate School of Medicine, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033

管病の診療における知識の体系を構築する必要があります。医療と医学研究が巨大なシステムに変わりつつある中、心臓病学会が足元を固めつつ、世界に向けて

情報を発信できるよう努めてまいり所存です。会員の皆様のご支援をなにとぞよろしくお願い申し上げます。